

横浜美術館

平成 19 年度業務報告書及び収支決算書

財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜美術館

平成 19 年度業務報告及び収支決算

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 8 階一部 3 階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m ²
開館日	平成元年 1 月 3 日

2 指定管理者

法人名	財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 1 0 日
指定期間	平成 1 8 年 4 月 1 日から平成 2 0 年 3 月 3 1 日

3 平成 1 9 年度総括

平成 19 年度は、20 年度からの本格的な指定管理者共同業務体による運営を意識し、地域密着と市民協働を念頭に置いた活動を中心に、多様な活動を行いました。今後の健全な美術館経営に資するための外部資金導入システムとして「Heart to Art 業務」を新たに立ち上げ、当初目標を上回る資金を獲得しました。今後も広くサポート企業を募り、ファンディングの仕組みとして確立していきます。

企画展は、市民に身近なテーマや、新たな視点・新たな芸術の紹介など多彩で、独自性のある展覧会を展開し、メディア等においても多数取り上げられました。その中でも 10 年振りに取り上げた森村泰昌氏が、19 年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞し、これまで支援してきたアーティストの活躍が認められたことは、当館にとっても成果といえます。

また、20 年度より始まる「横浜美術館塾」の市民への周知を兼ねたイベントを開催し、多くの市民の参加を得る成果をあげました。

その他、インターンの受入れやボランティアの登用、新進アーティストの滞在制作・展示、ティーチャーズデイなど、既存の業務から発展した活動も活発に行いました。

また、横浜トリエンナーレや黄金町バザールなど横浜市が行う創造都市限界業務への支援・協力や、開港 150 周年記念業務に向けた取組みなども積極的に行いました。

4 業務報告

業務計画における取組みの項目・方針	業務報告（取組み内容）
【自主事業】	
<p>①学芸業務事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の最も基本的な機能を果たすための作品収集、保存管理、調査研究、展覧会企画の各業務を行います。「観る」「創る」「学ぶ」という美術館の全活動の基盤である収蔵美術品の収集・保存・研究、及び企画調査を確実にを行い、市民に「新しい価値の発見」をもたらし、横浜の魅力を国内外に発信します。 ・収蔵美術品の日常管理を確実にを行います。 ・他の美術機関・大学などと連携し、ネットワークの強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●内部検討委員会を開催し、作品収集候補案を横浜市に提出しました。その結果、寄贈5件11点、寄託8件8点を受入れました。 ●横浜美術館研究紀要第9号を発行しました。 ●博物館実習を9名を受け入れました。20年度は博物館実習有料化を計画しています。 ●他美術館との巡回展や、市水道局、三溪園、みなとみらいホール、能楽堂など、財団他施設や横浜市、他の美術館や関連施設と連携した事業を多数企画・開催し、今後につながる美術館内外のネットワーク形成を強化しました。 ●収蔵美術品の日常管理については、収蔵庫及び展示室の温湿度管理に気を配り、不具合に対しては即座に対応するとともに、横浜市へ報告をしました。また、状態の安定しない収蔵庫温湿度環境や、更新時期にある空調設備の改善についても、対応策を横浜市に提案しました。
<p>②展覧会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より広く多角的なアプローチと外部との連携により、オリジナルでクリエイティブな4本の企画展を開催し、美術を通して「横浜ならではの魅力」を発信します。 ・横浜美術館の収蔵美術品を紹介するため、3期に分けてコレクション展を開催する。その中で、横浜美術館の代表的作品を通年展示するコーナーを設け、繰り返しの鑑賞を可能にし、作品と市民との親密度を高め、また遠方からの来館者の期待に応えます。 ・展覧会関連事業を周辺地域へ展開します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●入場者数 <ul style="list-style-type: none"> ・水の情景展：38,709人（達成率111%） ・森村泰昌展：36,934人（達成率93%） ・シュルレアリスム展：36,397人（達成率73%） ・GOTH展：26,010人（達成率75%） ●入場者数では目標値を下回る展覧会もありましたが、身近なテーマで市民の関心と参加を促したり、鑑賞者が自ら考える仕掛けを行ったり、世界の最新の美術の動向を横浜から発信したりなど、オリジナルで多彩な企画展となりました。 ●チケット発売については、シュルレアリスム展はチケット券面デザイン確定に時間を要したため発売が遅れましたが、他の3本については2ヶ月前に発売し、周知期間も長くことができました。 ●南区と連携して「桜プロジェクト」に参加し、市民のアトリエ講座のテーマに発展させるなど年間を通して周辺地域との連携を図りました。

③美術情報に関する事業

・美術図書及び収蔵作品や作家その他美術全般に関する情報を「美術情報」と位置づけ、収集→蓄積→整理→保管→公開のプロセスの効率性・機能性をさらに高めます。

・現代美術アーカイブプロジェクトチームを組織し、「現代美術アーカイブ」を構築し、横浜トリエンナーレ支援やアーティストの発信につなげます。

・インターン、ボランティアと共に活動を進め、情報収集、整理、情報提供のシステムの構築を積極的に進めます。

・美術情報センターの利用促進を目的とした広報を積極的に行います。

・展覧会与連動する図書・映像資料を公開します。

〈指標〉

- 学芸教育Gの蔵書を美術情報センターへ移管
- 現代美術アーカイヴシステムの確立
- インターネットでのニュース発信
- 美術図書と映像を活用した事業 年6回

●調査研究のために収集してきた図書を美術情報センターへ移管、ボランティアとの協働で整理を完了し、美術情報を幅広く公開しました。

●市民ギャラリーと連携し、同ギャラリー所有の現代美術に関する資料を移管し、アーカイブス化に着手する準備を行いました。

●メールマガジンへの情報掲載までには及びませんでしたでしたが、企画展と連動した資料展示など特色ある企画を実施しました。

●企画展と関連した映像資料を公開したり、美術情報センターで関連資料を展示するなどして、企画展の理解をより深めていただく工夫をしました。また、初めての試みとして図書ボランティアを採用し、学芸から移管された図書を整理し一般公開できる状態にできたことも大きな成果といえます。

④教育普及事業

全館的に下記の方針で取り組みます。

・市民の誰もが美術に親しみ、自らの創造性を高めることのできる美術館を実現するために横浜美術館の「観る」「創る」「学ぶ」という機能を連動させたプログラムを実施します。

〈指標〉

- 展覧会鑑賞プログラム 年60回
- 鑑賞キットの開発
- ティーチャーズデイ 年4回
- 子どものアトリエフレンズ事業 年10回
- 美術夜間学校 全12回

●展示会鑑賞プログラムは、全体で70回実施し、参加者は5,323人となりました。鑑賞に導く職員のスキルアップが課題です。

●「日本画」の素材や技法に関する鑑賞の導きを、「学校プログラム」の学年単位のワークショップにも対応できる鑑賞のキットとして整備しました。日本画へのアプローチの手法としては、美術情報センター所蔵の昔の教科書資料を活用し、「臨画」という明治～昭和初期の学習法を体験させることによって、現代では稀になった日本画独特の“筆の線”での表現法を意識化させるとともに、日本画を鑑賞し、子どもの実体験に基づく一連の鑑賞プログラムを試行しました。

●ティーチャーズデイを4回実施し、計105名の参加がありました。初年度としては一定の成果をあげることができました。

●フレンズ事業及びアウトリーチ 11回実施し

	<p>ました。フレンズ事業は相手施設との連携が鍵となるので、職員間の意識の共有化、意志の疎通に今後も努めます。</p> <p>●当初予定していた美術夜間学校は、内容の拡大を図るため「美術館塾」とし、横浜美術館塾開講記念トーク・イベントを3回実施しました。また、トーク・イベント関連「旅」企画：紅葉の京都2日間を実施し、20年度からの本格実施につなげました。</p>
<p>⑤人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術の活動をとおして新たな自己実現を体験し、生活の充実を図ることを目指します。 ・市民と美術館をむすぶ人材を育成し、それによって館外でのアウトリーチ活動等を行う体制を築きます。 ・教育系大学等と連携した事業を実施します。 ・インターンを受入れ、美術館事業についての実践的なノウハウを社会に還元します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インターン受入 年10人 ●アウトリーチで実行できるワークショップユニット育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の事業において、インターンなどを受け入れ、現場体験による人材育成を推進しました。 ●企画展・コレクション展・AIMYでは、計12名のインターンを受け入れました。子どものアトリエでの夏休み講座でも14名のインターンを受け入れたほか、[夏休み子どもフェスタ2007]への大学生の実習を21名受け入れました。 ●個人でのワークショップ・アーティストを2人育成し、「子どものアトリエ」や「あざみ野」で講座を単独で担当しました。
<p>⑥子どもに対する取組み事業</p> <p>子どものアトリエを中心として次の方針で取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形及び鑑賞活動を通して子どもたちの将来にわたって美術を愛する心を育みます。 ・幼児・児童を対象にワークショップを中心にした体験型のプログラムを提供するとともに学校教育と連携したプログラムをより充実させます。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●講座定数、定員100%確保 ●次年度年間スケジュール全学校へ配布 	<ul style="list-style-type: none"> ●「学校のためのプログラム」「個人講座」「教師のためのワークショップ春期夏期講座」等で定員以上の参加を得られ、鑑賞や造形の活動など美術を通して子どもたちの成長に貢献できました。 ●小学校の横浜市図工研究会及び中学校の美術研究会へ、アートティーチャーズデーでの情報提供を行い、学校との連携に取り組みました。
<p>⑦市民の創作活動支援事業</p> <p>～創ることにより美術を学ぶ～</p> <p>市民のアトリエを中心として下記の方針で取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の創作活動をより活性化し市民生活と美 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の自主的な創作・表現活動を支援する講座だけでなく、展覧会と連携した講座や市民協働での作品制作・展示など市民が幅広く参加・学ぶことができる場を提供しました。

<p>術をより密接なものとすることを目的とし、市民の創作活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広く勤労者層をとりこむため、企業の福利厚生や研修事業と連携を図ります。 ・ 活動の成果を発表・展示することを支援します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会と連携した講座設定 ● 講座定数、定員 85%確保 ● 制作相談 年 2 回 ● 周辺地域での制作発表 年 1 回 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水の情景展、シュールレアリスム展で関連講座を実施しました。 ● 講座：総定員：2496 参加者数：2192 (87.8%) ● 相談を受けて展覧会として実現したのは、年 1 回となりましたが、制作相談はオープンスタジオにおいて常時実施しました。 ● 水の情景展での美術の広場噴水での作品展示をはじめ、市民のアトリエ講座参加者作品展を三菱みなとみらい館で展示するなど、周辺地区への展開に努めました。三菱みなとみらい館での展示期間中には、相互連携として割引制度を設け観客誘致を図りました。AIMY 作家の展示をアートギャラリーだけではなく、グランドギャラリーやカフェなど館内の様々な場所を利用して行いました。
<p>⑧創造活動支援事業</p> <p>～創ることを支援する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手アーティストを支援対象とした滞在型ワークショップを中心とした事業を行います。 ・ 創造プロセスを重視しながら、市民とのコミュニケーションをはかり、文化芸術創造都市の実現を目指します。 ・ 展覧会と連携したワークショップを行い、市民とアーティストとの出会いの場を提供します。 ・ 横浜トリエンナーレの候補アーティストの発掘も念頭に置いて取り組みます。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新進アーティスト 年 20 人選定 ● 新進アーティストの企画展 年 10 企画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民ボランティアや学生インターンによる活動を積極的に組み込むことで、市民とのコミュニケーションや市民とアーティストの出会いの中で、プログラムにさまざまな視点を取り込むことができました。 ● キュレトリアル・サポーター・プロジェクトは参加者の積極的な関わりの中で、8 名のアーティストを選定し、質の高い展示をすることができました。 ● AIMY では 5 名の若手アーティストと、公募による 2 組のアーティストを選定し、滞在制作及び展示を行いました。 ● AIMY、NAP とともに充実した活動を実施することができ、年間 10 本を超える展示を実施しました。 <p>AIMY 関連：7 本 NAP：3 本 キュレトリアルサポーターズプロジェクト展：1 本 計 11 本</p>

【運営】	
<p>①施設の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の開館日に加え、年始開館、休館日を活用した新たな活動など、魅力的な施設提供を行います。 ・誰にでもやさしいバリアフリーの施設を目指します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年始を1月2日から開館 ●休館日を活用した活動 ●バリアフリーに関する職員研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●1月2日から開館し、凧ワークショップ、琴演奏、ゴスロリ写真コンテスト、福袋販売など様々なイベントを行いました。広報にも力をいれ、お正月開館用チラシも作成し周知に努めました。 ●フランス月間と連携した「大舞踏会」をはじめ、CM・ドラマ撮影、ファッション誌撮影などを行い、協賛金を獲得しました。また、19年度後半から具体化し始めたHeart to Art事業も、企業と美術館の連携プログラムとして成果をあげました。 ●神奈川県ライトセンターより講師を迎え、目の不自由な方への対応について研修を行いました。
<p>②レクチャーホール運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャーホールを効率的に運営します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用率60%（コマ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●レクチャーホール利用率52% ●レクチャーホール利用率向上策として、空き状況をホームページにアップし、周知に努めた結果、上半期と下半期を比較すると約10%利用率を上げることができました。
<p>③施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドギャラリーの有効活用を進めます。 ・新たな割引制度を検討します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グランドギャラリー活用 年50回 	<ul style="list-style-type: none"> ●年55回 企画展のオープニング、展示スペース、クラシックライブ、パフォーマンススペース等に活用しました。
<p>④広報公聴事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な早めの広報により利用者数および収入を安定させ、「横浜美術館ファンの裾野の拡大」および「安定的な事業の健全な運営」を実現し、美術の普及振興につなげます。 ・お客様にとって魅力ある美術館を実現するため、市民の声を反映させる手法を確立します。 ・効率的な事業の情報提供・宣伝によりチケット販売を促進します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●共同事業体と広報協力 4企画展ごと ●YMAクラシックライブ 年42回 ●ボランティアによる広報活動 年6回 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報については、年間を通してランドマークとの連携を行いました。また、20年度のランドマークプラザカード一新に合わせた連携について協議を進めています。相鉄エージェンシーとは子どものアトリエ事業での連携について協議を進めています。 ●クラシックライブは、企画展の観客誘致にも貢献できるよう、企画展が開幕してから演奏内容を企画する方法に変更したため、開催回数年29回と減少しましたが、演奏内容と広報宣伝の連動で内容を充実することができました。 ●内部で広報チームを設置し、広報の一本化を

<ul style="list-style-type: none"> ●メールマガジン会員「マグリット・クラブ」発足 ●アンケート様式の見直し・改善 	<p>行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●9月よりメールマガジンの配信を開始し、展覧会をはじめ、様々なイベントの紹介に活用を行いました。各イベントの参加者募集にも一定の成果をあげました。 ●財団全体での顧客満足度調査に対応できるように改善、変更しました。平成20年度実施予定の対面調査、WEBによる調査に向けて準備中です。
<p>⑤ファンドレイジング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業の円滑な実施と事業目的を達成するため、事業協賛など組織的な取組みによって外部資金を獲得します。 <p>（指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●協賛金 企画展収入の10% 	<ul style="list-style-type: none"> ●企画展収入 75,800千円に対し、協賛金収入は31,000千円で、目標をはるかに上回りました。 ●Heart to Art事業の開発や、積極的に撮影協力を行うなど、外部資金獲得努力が成果をあげました。
<p>⑥組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館で展開される事業の品質を保つ基盤として、美術館としての専門性の高さを最大限に生かすことを重視し、外部の意見を取り入れる体制を確立します。 ・各分野の専門性を生かした横断的な事業展開を行います。 ・平成20年度からの共同事業体での運営に向け、総合力を発揮できるよう準備を進めます。 <p>（指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経営アドバイザー会議、外部評価委員会の立ち上げ ●PDCAサイクルの実施 ●全館的に取り組む事業 プロジェクトチームによる推進 ●共同事業体ミーティング 月1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営アドバイザー会議は、平成20年度立ち上げに向けての準備を行いました。方向性としては3名のアドバイザーを選定し、年4回会議を開催する予定です。外部評価委員会については、あり方について平成20年度以降再検討を行うこととしました。 ●財団全体の個別事業評価システムによる評価を実施し、今後の企画等につなげます。 ●全館的に各プロジェクトチームを編成し（夏休み子どもフェスタ、開館記念フェスタ、お正月イベント、ボランティア学校、新進作家公募、美術館塾、アジア・アート・ネットワーク）、それぞれのプロジェクトについて成果をあげました。 ●共同事業体ミーティングは、毎月開催し、4月からのスタートに向けて準備を進めました。
<p>⑦ミュージアムショップ・カフェ・駐車場経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様のニーズに応える品揃えと価格設定を常に考え、堅実かつ合理的な経営を通じ、来館者へのサービスの質を向上させます。 ・館内のカフェの演出に重点をおき、質の高い飲食と空間の提供に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ショップ <ul style="list-style-type: none"> ・売上金額よりも高利益商品での商売形態へ移行させていくことで、売上金額は減少するものの、ショップ事業における年間収支を予算よりも好転させていく計画に変更したため売上は減

<p>・来館者サービスと美術館収益のため駐車場を運営します。</p> <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ショップ売上 年 80,000 千円 ●カフェ収入 年 4,200 千円 ●駐車場収入 年 34,800 千円 	<p>となりましたが、経費も削減したため、最終的には黒字となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カフェ ・次年度以降の集客が見込めるため、当初予算化していた貸切誘致制度の確立を取りやめた結果、19年度のカフェ収入は減となりました。 ●駐車場 ・3月末収入見込み 35,770 千円
<p>【管理】</p>	
<p>①安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急レベルに応じた危機管理体制を整備します。 ・消防・警察との連携を図ります。 ・正確で安全な現金管理を行います。 <p>〈指標〉 ●消防訓練 年 2回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●計画通り、消防訓練を年 2回実施しました。
<p>その他</p> <p>①個人情報保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員・スタッフ一同、取り扱いの重要性を認識し、業務を行っていきます。 <p>〈指標〉 ●個人情報保護研修 全職員対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●7月に個人情報保護研修を実施しました。
<p>②情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館活動の記録として年報を作成します。 <p>〈指標〉 ●年報作成 年 1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新収蔵作品目録を 3月 31日付けで発行しました。
<p>③ホームページ上での情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館運営に関する情報についてホームページ上で公開します。 <p>〈指標〉 ●最新情報のアップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年間を通して、事業のみならず、ボランティアやインターンのお知らせ、館の運営状況についての最新情報をアップしました。また、レクチャーホールの空き状況についてもお知らせ欄から参照できるようにし、来場者だけでなく、美術館を利用する方々にも便利な情報の公開に努めました。

5 決算

平成 19 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	559,162,000	
利用料金	27,660,850	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)
事業収入	96,188,156	企画展、アトリエ事業等
助成金等	59,715,270	助成金、協賛金等
その他収入	211,506,778	ショップ、駐車場等
合計	954,233,054	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	320,950,626	
事務費	25,649,936	美術館運営事務費
管理費	310,550,561	施設管理経費等
事業費	192,556,721	
負担金	82,000	
その他の支出	74,010,325	ショップ、駐車場等経費
合計	923,800,169	

収支差額	30,432,885	
------	------------	--

6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
主席指導員	1	
副館長兼グループ長	1	学芸教育グループ長兼務
グループ長	2	学芸教育グループ長2(うち副館長兼務1) 経営管理グループ長1
リーダー	6	経営管理チームリーダー 1、情報管理チームリーダー 1 次席学芸員 1、主任学芸員 2 主任指導員 1
職員	28	経営管理グループ 10 学芸教育グループ 18
計	40	学芸員 13 指導員 9 司書 2 事務職 16

7 平成 19 年度事業一覧

芸術家発掘・支援事業

No.	開催日	事業名	部屋名	主催、共催、後援、 協賛など	予定 人数	入場料・ 受講料	入場 者数	入場 率
1	2007 年 4 月 21 日(土) 2008 年 3 月 31 日(月)	創造活動支援 事業	館内	主催:横浜美術館 協力等:アーカスポ ロジェクト実行委員 会(出田展)	13,000	500 円	19,702	152%

芸術への市民アクセス拡大事業(鑑賞系事業)

No.	開催日	事業名	部屋名	主催、共催、後援、 協賛など	予定 人数	入場料・ 受講料	入場 者数	入場 率
1	2007 年 4 月 1 日(火) 2008 年 3 月 31 日(月)	コレクション展	展示室	主催:横浜美術館	161,000	500 円	167,294	104%
2	2007 年 4 月 1 日(日) 2008 年 3 月 31 日(月)	観客誘致事業 クラシックライブ	グランド ギャラリー ー	主催:横浜美術館	2,400	無料	2,400	100%
3	2007 年 4 月 1 日(日) 2008 年 3 月 31 日(月)	協賛金獲得事 業 Heart to Art	グランド ギャラリー ーほか	主催:横浜美術館	-	-	-	-
4	2007 年 4 月 21 日(土) 2007 年 7 月 1 日(日)	企画展「水の情 景—モネ、大観 から現代まで」	展示室	主催:横浜美術館 共 催:日本経済新聞社、 神奈川新聞社、tvk(テ レビ`神奈川) 後援:横 浜市市民活力推進 局、NHK 横浜放送局 協力等:助成:財団法 人地域創造、アサヒビ ール芸術文化財団 特別協賛:アサヒビー	35,000	1000 円	38,709	111%

				ル株式会社、アサヒ飲料株式会社 協賛:花王株式会社、フジフィルム株式会社 特別協力:横浜市水道局 協力:横浜市環境創造局、京浜急行電鉄、相模鉄道、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、特別協賛:アサヒビール株式会社 協賛:花王株式会社				
5	2007年7月17日(火) 2007年9月17日(月)	企画展「森村泰昌-美の教室、静聴せよ」	展示室	主催:横浜美術館 共催:朝日新聞社 後援:横浜市市民活力推進局 協力等:一色事務所、Ufer!Art Documentary、MEM INC.、cozfish、シュウゴアーツ、3D デジタルサービス OURA(小浦石油株式会社)、浜松ホニクス株式会社、ミタテ工房、理論社、鱈虎工房、京浜急行電鉄、相模鉄道、みなとみらい線、横浜ケーブルテレビジョン、横浜市ケーブルテレビ協議会、FM ヨコハマ SHISEIDO	40,000	1100 円	36,934	93%
6	2007年9月29日(土) 2007年12月9日(日)	企画展「シュルレアリスムと美術—イメージとリアリティーをめぐって」展	展示室	主催:横浜美術館 共催:「シュルレアリスムと美術—イメージとリアリティーをめぐって」展実行委員会、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川) 後援:NHK 横浜放送局、横浜市市民活力推進局 協力等:日本航空、京浜急行電鉄、相	50,000	1100 円	36,397	73%

				模鉄道、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、横浜市ケーブルテレビ協議会、FM ヨコハマ				
7	2007年12月22日(土) 2008年3月26日(水)	企画展「GOTH-ゴス-」	展示室	主催:横浜美術館 後援:オーストラリア大使館/メキシコ大使館/NHK 横浜放送局/横浜市市民活力推進局協力等:日本航空/クinstハレ・ウィーン/京都造形芸術大学/京浜急行電鉄/相模鉄道/みなとみらい線/横浜ケーブルビジョン/横浜市ケーブルテレビ協議会/FM ヨコハマ	35,000	1200 円	26,010	75%

芸術への市民アクセス拡大事業(体験・参加・学習等)

No.	開催日	事業名	部屋名	主催、共催、後援、協賛など	予定人数	入場料・受講料	入場者数	入場率
1	2007年4月1日(日) 2008年3月31日(日)	市民の創作活動支援事業	市民のアトリエ 版画室、平面室、立体室、他	主催:横浜美術館 協力等:日本の竹ファンクラブ、前田建設工業株式会社、藤木企業株式会社、シティーアクセス株式会社、ヤマギワ株式会社、株式会社寺田ポンプ製作所、株式会社ウチムラ、日本文教出版株式会社慶応技術大学理工学部中川研究室、カラキネテックスジャパン、横浜市立中学校教育研究会美術部会、横浜市環境創造局、横浜市市民活動支援センター、株式会社東京舞台照明、塚田裕、佐藤忠、平石真司、土屋真美子、前田朋英、金森興平、小森明雄、畠山崇、村松広、兒玉由美子協賛:花王株式会社(水の情景展関連)	2,483	無料	2,192	88%
2	2007年4月1日(日) 2008年3月31日(月)	人材育成事業(無料事業)	館内	主催:横浜美術館	-	無料	59	-
3	2007年4月1日(日)	子どもに対する取り組み事業	館内	主催:横浜美術館	460	無料	486	106%

	 2008年3月 31日(月)	(有料講座)						
4	2007年4月 1日(日) 2008年3月 31日(月)	子どもに対する 取り組み事業 (無料講座)	館内	主催:横浜美術館	-	無料	29,526	-
5	2007年4月 1日(日) 2008年3月 31日(月)	教育普及事業 (有料事業) 横浜美術館塾 プレイベント	館内	主催:横浜美術館	580	無料	400	69%
6	2007年4月 1日(日) 2008年3月 31日(月)	教育普及事業 (無料事業)	館内	主催:横浜美術館	-	無料	5,000	-